

# 震災9年

教訓を今に



今年は、同町の酪農家の実話に基づき制作された紙芝居「浪江ちち牛物語」を披露する。家族同然に愛情を注いで育てていた牛を原発事故のため殺処分しなければならなかつた事実を、牛の目線で捉えたストーリー。浪江まち物語つたえ隊を朗読に迎える。

今年は、同町の酪農家の実話に基づき制作された紙芝居「浪江ちち牛物語」を披露する。家族同然に愛情を注いで育てていた牛を原発事故のため殺処分しなければならなかつた事実を、牛の目線で捉えたストーリー。浪江まち物語つたえ隊を朗読に迎える。

2011年3月11日、東日本大震災が起きた「あの日」。甚大な被害をもたらした福島第一原発原子炉建

イターとして、古里への思いを歌で伝えてきた。

## ●記憶とどめる

牛来の頭文字や群馬にちなんだ「G—ナミエプロジェクト」を支援する仲間と共に立ち上げ、年1回手作りの復興支援コンサートを太田で開催。今年は6月20

日に3回目を開く。「時間の経過とともに、どんなに大きな出来事でも風化していくのは自然の流れ。ならば、あつたことを

年のコンサートでは、浪江町の消防団員が、がれきの下に多くの命を確認しながら避難しなければならず、助けられなかつた無念の思いを描いたアニメ映画を上映した。

トでは、古里への思いを込めた代表曲「いつかまた浪江の空を」を歌う。

9年前壊れてしまつた町で見上げた空は青く、何とも美しかつた。震災時2万人を超えていた人口は現在千数百人。復興はまだまだだが、未来を信じて歌う。

## ②伝える

古里・浪江への思い曲に

牛来 美佳さん 太田

屋近くの施設で放射線管理事務を行つてた。全町避難となり、住み慣れた福島県浪江町を離れ、当時5歳だった娘と太田市に避難した。町は地震と津波で大きな被害を受け、「当たり前のように明日が来なかつた」。例えようのない気持ちを言葉にし、シンガー・ソングラ

# 復興と未来信じ歌う

伝え、多くの人の記憶にとどめておいてほしい」。そ

んな思いで昨日

の両日、コマトイモ、ギ

トに沈め、歌にエネルギーを注いできた。「感情がうまく歌に乗つていかない」と感じるようになつた。それでも震災直後から持ち続けている「私が歌わなければ被災者の思いは伝わらない」という気持ちは変わらない。6月のコンサ



被災者の思いを伝えるために歌い続ける牛来さん

## ●実家が「売り家」

この1年、気持ちに変化が現れた。昨年春、浪江に行つた時、実家に掲げられた「売り家」の看板を目

した。

半年前には震災まで住んでいたアパートが壊され

た。古里に帰るたびに一軒また一軒と取り壊され、景色が変わり、やるせない思いを感じていた。「ついに自分の所も。帰る場所がない」。喪失感は計り知れなかつた。

**大学受験科** 高卒生  
入塾・入寮 申込受付中!

**大学受験科** 高卒生  
入塾・入寮 申込受付中!

6の両日、コ  
マトイモ、ギ  
つた県産食  
材  
产地を観察し

6の両日、コ  
マトイモ、ギ  
つた県産食  
材  
产地を観察し